

海文堂日誌

大正三年
一月以降

特別

14

1919

563



養息の口法

大正三申寅一月初五日



一月

元旦

昔の例のこころは家族と屠蘇の柳を
受け新年と祝す、近年元旦賀表
郵便をよきとつるに祝をぬすこと
例とさう、加ふる年のすまじに稀に
さう、但し加ふる年の語加しと致

七五る色むいり一松能進し来り
田原る木大江し二兵外二三の坊家
と接し十の登枝取観ると柳を
けりおのりと親志大出活を幼少の
しり響をさうけゆるごとく情活を
少く又夫人を奥にゆい旅の活るの
を病ししる怒り響をさうけ辞し
下谷こらう伊勢紋に柳枝を扱き
二三の合杯に親しむ為書物電に
田江部活るくお久能草玉並
中しと申せらうと申す

東橋同製

二日

明午後野代、朝をぬかぬを付
七神樂次、散葉し、終に首念の在
に列りしゆりも清り、ゆい赤山を
三秀雲を晴ひ三河船に一松を假
ゆ電杉山茂去去のまは事りし
すくもさうさるゆり、こらう、星更ら
且つ祝し且つ祝み十の去、作
伊助もも、舞和、き色と解りま
答るる冬地もも、すう、堆を力す

明、爪、古石、理、用、器、由、ら、し、ゆ、不、建
良、縁、為、井、云、況、中、外、二、三、の、ま、ま
ふ、傍、を、と、き、二、十、枚、記、の、年、受、状
出、す、散、葉、の、も、指、に、判、り、物、を、請
ひ、と、り、た、路、行、井、を、こ、ま、給、も、志、を
め、物、也、ま、お、不、快、の、家、の、一、く、
執、朝、来、外、ま、石、塚、と、ら、し、り、大、親、
き、教、書、入、つ、け、を、給、も、ま、い、花、状
と、是、ら、う、箇、の、林、道、也、(一)年、給、
事、う、函、を、と、出、ら、し、た、ま、又、う、去、る

東林寺

寂、寂、山、僧、西、五、好、町、を、笑、し、火
勢、極、烈、一、時、危、命、を、感、し、少、く
家、々、と、奔、り、入、り、ま、り、あ、い、
師、面、の、威、力、効、と、奏、し、九、の、半、
々、々、鎮、ま、り、遠、山、を、し、見、お、ま、
こ、こ、の、お、経、き、施、道、を、極、ま、

明、往、行、お、ま、の、茶、屋、こ、ち、ま、井、桑、三
年、訪、時、杖、の、少、き、お、ま、と、交、け
ま、り、人、々、と、交、り、あ、り、と、思、ふ、子

収美をといふ事、即ち何れか、之
より、端行の大宛と購ふ由を
二十四日拂爲、おふ熱をさうく
杉山東院、不在中六日、月次未
了、確石の心、すまぬ、おのり、姉
り、乾、急、一、函、を、贈、る、位、す、ま
ぬ、御、手、続、き、く、終、る、の、物、報
し、来、る、。

五子

吹六洋用次、庭柑保、度、念、う、付、り、り

東林製

可、坊、中、五、り、お、及、女、と、異、ふ、。四、子
解、也、補、出、の、任、意、出、る、程、村、事、の
干、後、田、原、口、以、分、を、注、の、と、事、の、と、
み、ま、注、の、と、物、を、贈、る、と、さ、る、が、欠
四、子、さ、る、。名、井、志、一、年、か、ら、て、事
夕、別、と、い、ふ、事、は、出、部、と、言、ふ、也、
さ、る、。出、部、と、い、ふ、事、は、向、事、の、向、事、
お、寺、竹、物、と、い、ふ、事、は、向、事、の、向、事、
十七、帖、古、本、と、い、ふ、事、は、向、事、の、向、事、
す、事、儀、事、の、試、奏、と、い、ふ、事、は、向、事、
四、子、使、と、い、ふ、事、は、向、事、の、向、事、

教令

二六

時、有合、あも、事、年、九、の、付、有、能
と人、を、を、女、を、付、の、之、非、會、上
甲、志、と、教、業、終、之、出、神、一、多、由
と、教、一、帝、百、終、の、流、神、字、と、と、も
元、と、一、刻、ゆ、を、杉、山、其、流、平、山、水
と、と、物、を、好、く、と、と、鐘、向、家、族、十、有、
物、を、好、く、と、と、

二七

カ、而、有、事、中、山、の、法、在、本、法、中、中、
事、信、く、心、脈、老、い、と、ん、多、き、多、五、十
日、也、遠、き、を、四、法、終、の、年、飛、坊、日
二、月、家、池、を、あ、り、と、前、川、大、馬、八、伯
の、物、信、之、保、を、耳、流、電、流、料、三
と、月、合、十、二、の、の、と、ん、多、き、物、信、杉、木、山
と、新、考、を、あ、り、と、ん、多、き、文、七、可、坊、坊
光、珠、向、南、國、禮、本、十、二、教、を、坊
と、と、と、杉、山、三、十、元、代、四、流、得、不
事、と、と、刻、と、と、月、と、と、と、と、と、と、

のちかふとこえふ

〆

のち相年の実を真とし相は先年に死
にありし自ら家の網の澤と島と貨と幣
又は積と貯とふ、宗を財として西に
也は数を保とふと亦と多く貯め仕てし
相の途に數を兼高木と仕ひ終に
木と仕と仕とあと猪とつつ
杉山須家のあの年論せめに
地を仕とし

東林同製

九〇

時、程お宗の事も、高橋理と相年
高橋理の事も、高橋義と高橋
自刻印ととを表とす、表とすと功
のとをとす、高橋某と高橋某と
地表の事も、年と公ととを仕とす、
家と仕と、株と仕と法と仕と、
料と仕との也、能本仕と江部仕
夫の事も、高橋某と

一、平泉、快杉山、其、子、物、く、似、を、
 し、高、而、し、り、と、を、り、う、刊、り、金、の、の、
 の、音、録、子、撰、湯、原、元、一、を、ゆ、の、不、
 思、回、考、録、こ、ち、ゆ、の、こ、り、と、ゆ、の、
 不、思、回、考、録、河、會、と、ゆ、の、を、ゆ、の、
 一、珠、珠、の、七、回、考、と、ゆ、の、美、本、を、
 し、と、ゆ、の、物、書、書、解、を、り、是、危、し、
 托、し、る、釋、山、撰、の、附、出、来、本、の、不、
 の、説、七、回、考、の、納、又、す、え、ゆ、の、
 十、回、考、が、近、未、あ、る、一、二、三、が、

十二

一、平泉、快杉山、其、子、物、く、似、を、
 し、高、而、し、り、と、を、り、う、刊、り、金、の、の、
 の、音、録、子、撰、湯、原、元、一、を、ゆ、の、不、
 思、回、考、録、こ、ち、ゆ、の、こ、り、と、ゆ、の、
 不、思、回、考、録、河、會、と、ゆ、の、を、ゆ、の、
 一、珠、珠、の、七、回、考、と、ゆ、の、美、本、を、
 し、と、ゆ、の、物、書、書、解、を、り、是、危、し、
 托、し、る、釋、山、撰、の、附、出、来、本、の、不、
 の、説、七、回、考、の、納、又、す、え、ゆ、の、
 十、回、考、が、近、未、あ、る、一、二、三、が、

この為、先帝の御度のみ行へず、先
 帝御成す、杉山茂久の昔と、

十九

時、先帝の御成す、御城は、
 杉山茂久の御成す、御城は、
 の御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、

東林閣

御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、
 御成す、御城は、

二十

古河、古河の三回、古河の
 と、古河の三回、古河の
 幅、古河の三回、古河の
 四、古河の三回、古河の

二十七日

晴、吉野山にて早稲、下村宮をへ一京
都より、早稲の家、以て他つて、早稲
の宮、法下早稲を、以て、早稲の
宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮

二十七日

晴、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮

東林寺

早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮
早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮

二十七日

北池の前後

早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮、早稲の宮

すむらぬ下村谷村事りなむす下村
改筆お終りぬとゆふ、所回万と
解しむおみおと付しを切書坂
浪ふおとと響のしとぬる坂に五島
東流又刻しむし報む生余下依
浪の島徳持大お終り前略通
に振えん樂地の中一家、高四と
世と新くお終りぬるしと高四と
すし

二十方

東
林
百
製

明代、出陣部の件より高四後
山尾治あすむゆ、高四らむし高
推之の果敢とゆふ、朝井あ
言ふの二三の事あむと、相正
の者、高四、出陣部らむし二万
勝又、平終、出陣部らむし高
と記入念大高四の件、高四らむし平
山尾治をゆふと高四の事、高四を
ぬ書山かにと高四、高四らむし二
三の事、高四、高四らむし高
高四らむし、高四らむし高

土肥と儀オしラビロしと親る。

二十一日

明、上の峰、桂考らうし、度、中、協外一、
セ、十、年、の、度、の、内、来、る、前、峰、活、大、谷、
順、心、轉、り、玉、と、其、後、修、儀、の、件、を、其、流、
に、村、に、お、り、し、る、年、の、功、を、表、す、る、に、
吉、山、権、之、の、協、政、我、志、考、商、に、
二、托、す、と、其、の、お、り、に、古、状、を、お、り、
年、終、り、る、木、を、功、に、し、る、刻、塔、を、
親、山、人、を、と、再、く、と、
余、の、意、

東林堂

成る、高、士、月、初、の、納、涼、の、日、也、出、
来、す、し、別、に、所、并、紙、す、印、也、
を、親、山、の、と、好、る、書、山、代、る、日、
許、に、お、り、し、る、次、の、考、る、に、余、
也、本、多、高、士、の、日、本、高、村、花、木、池、
と、親、る、

二十九日

明、西、段、の、人、お、り、敷、布、の、被、去、外、
二、本、高、村、の、日、本、高、村、花、木、池、
於、て、又、の、日、本、高、村、花、木、池、
に、其、の、長、洋、行、の、舟、を、親、る、

遠道甚し氣也熱おもしろい
亭のり

七六

晴が乳多入熱うし、病人ある中
けり、す報り馬車あるところ
が、深くうくす、あり中、あか
家して家う色と色よりぬあ
正午七熱うし、二時坂田
の耳冷をうく、山は後天
院室の表は本村の橋え

東橋原製

口え、昂三の十分汽ある車
さう、く、山は後天、
夫、晩る病、杉山花
有、昔、自分、の味、
関、印、痛、み、梅、唇、を、
せし

八〇

今朝曇天、雪、降る、は、
あ、ま、ま、を、み、つ、を、
あ、ま、ま、を、み、つ、を、

此家十三年前余の海軍をこきり
〜ありもすゝその物を破くは家
也又他の家、竹二三の物を踏よ
家、一式破くといふ

十一の ころころ

時、と死池方凍、物々も山鹿美
舞のり、朝おらあ、町に出た、二三
の女子、夕夕と、膝の、日印とあえ
十の四十五分、一土、ゆきし途、既く
仲、停、東、市、こ、山、未、こ、こ、こ

東林同製

し、朝、子、ゆ、の、花、枕、を、や、め、く、日、東、の
橋、こ、と、お、ま、車、中、五、時、の、北、依
の、流、一、舟、渡、る、物、書、女、ゆ、り、家
具、を、指、の、く、海、軍、も、ち、ま、う、の、海、軍、ゆ
を、う、し、は、終、り、を、お、ま、ゆ、こ、あ、を、破、く
み、つ、を、破、し、て、田、が、三、河、屋、に、破、し
よ、山、を、こ、ま、ま、う、り、ゆ、也

十二の

時、朝、早、家、物、を、物、に、記、し、且、つ、内、子、を、付
あ、を、物、を、こ、こ、こ、く、海、軍、ゆ、を、あ、う、あ、う、す

道南極探險の事
の事

十六

町、廣西、中、正、改、山、上、峰、年、う、あ、り、井、り、
川、上、流、一、中、々、の、鑛、少、中、一、交、と、本
流、の、流、等、あ、り、た、り、尾、取、り、つ、本
東、流、山、上、直、と、又、此、の、流、の、時、向
を、論、す、う、れ、中、の、一、也、也、其、其、
く、流、り、入、る、大、井、井、弁、三、文、の、地、合
の、前、途、に、此、き、本、流、を、向、東、伍、又

東極探險

高、者、海、島、の、計、書、の、本、流、は、地、の
田、原、鑛、を、出、す、と、出、す、
杉、山、を、義、と、文、の、地、合、の、件、に
付、本、古、身、人、谷、口、興、上、中、の、計、別
の、事、中、事、可、く、不、也、

十九

鑛、合、と、す、本、流、と、し、高、人、志、伴、益、と
う、と、し、や、あ、る、朝、来、々、う、く、雪、降
り、た、り、は、も、雪、志、さ、り、に、降、り、西
村、駿、次、の、架、地、に、一、城、後、名、鑛、海
の、事、の、件、を、本、流、三、也、昔、の、事、と、也

三井三井三井三井の法あり、五峰、
尾形兵衛、山田、
角田、
人、
鈴、
御、
お

東林堂製

二十日

西、鈴、
三十八、
丸、
来、
話、
定、
き、
付、
二、
お、

本誌

二十一

明、平沢湖中、可記、鯉一斗、父の計、
真、吟、桂、次、ら、し、し、と、饒、白、魚、を、獲、り、
鱈、会、を、し、事、状、あり、福、を、お、か、か、中、
之、う、校、長、伊、東、尾、四、中、益、報、に、寄、り、
を、又、し、し、し、を、事、し、即、ち、示、し、知、ら、
出、心、の、古、徳、化、有、徳、を、高、ら、し、事、
又、す、事、正、に、行、た、事、治、事、林、野、三、さ、
高、見、り、又、泉、の、物、を、能、く、事、し、事、

東洋書院

、その内の者を愛人の十三、向ハ、十、
之、田、より、大、残、ま、し、う、一、一、伊、東、書、院、
其、由、より、中、の、者、あり、一、日、中、正、午、
之、く、一、日、前、の、事、も、物、に、供、を、
事、し、七、九、房、人、の、物、を、能、く、事、し、
其、何、の、事、も、三、十年、の、念、を、
即、ち、借、り、し、事、も、件、に、大、
其、評、議、を、し、三、時、二十、台、
之、を、借、り、し、事、も、件、に、一、
其、進、自、也、ゆ、の、事、も、

二十二のり曜

雨、鏡をうらみたり。まらりつ花を物衣と絶句
と後、い、園遊録、月入、こけり、の活、概、尺
金、の、概、案、に、関、し、和、舟、を、向、て、見、一、寺、を
見、た、り、う、家、を、見、し、石、塔、を、見、し、寺、状、を
投、り、り、ぬ、こ、め、三、十、五、十、カ、み、つ、日、付
切、を、折、り、入、り、伊、老、を、終、り、西、方、つ、つ、
く、鏡、を、う、ら、み、見、た、熱、を、く、無、く、あ、る、氣
道、を、な、度、み、し、く、曲、後、病、勢、持、地
の、な、る、吹、い、じ、ぬ、ら、う、と、是、し、し、向、み
たり、初、め、し、名、を、書、き、う、ら、み、熱、を、解、く

東條原製

噴、嗽、未、ぬ、ま、ら、う、入、物、書、及、二、道、の
そ、こ、と、き、と、病、を、く、り、か、う、う、初、末、雨、夜
し、と、書、と、う、ら、み

二十三日

そ、れ、病、を、二、寸、ち、ろ、終、り、つ、く、果、須
唐、を、と、鏡、山、の、う、ら、み、と、交、渉、す、山、田、海、
心、御、考、を、い、お、す、お、息、其、治、り、を、使、心、林
日、日、文、次、り、し、お、林、枕、を、き、き、山、の、こ
五、山、奉、の、御、入、持、法、騰、字、の、件、を、終、り、
直、つ、終、り、し、梅、の、息、を、終、り、す、お、流、海、子

しうし四史書者一冊終る、其時、謝林
をいふ、大なるに昔をいふ、痛く
雷況と報す、安田旅命をいし乳葉
をいふ、おのり、杉本政尚の病
児の由況と報す。

二十四

明、御書をいし二通のち就來す、文政城
等し、まてまらる日おきたり、中世傳
也、松村有の俊、唯土屋治長
交、事流、片尾康、又、其

東林堂製

唐のゆしし和直了、かを購の、其
ふれたり、のち、接う、がしく、或る
の、其、味、ち、い、物、向、と、新、い、も、金、也
さん、と、終、し、末、女、を、付、の、い、神、也、其
ふ、物、を、終、ひ、終、い、四、谷、三、河、也、其
仰、し、と、い、う、は、り、

二十五

陰、海、を、い、し、も、吉、村、有、も、り、及、ん、也
峰、三、神、洞、を、い、し、木、村、大、也、其、也
水、清、流、交、も、事、流、三、神、也、其、也

ちと物を貯るゝ、中命はす弥に原供
と以てち物細く言金山十内院
らるゝ例の姑婿問題：関す直に
見えむとあらう、管板市をさす
す、田中痴成とて又部有標準記
止かあるの昔の使すも、又刻とて里
らるゝ生養う格と舎分とてし
らるゝもしくらるゝ十之内二人尺
庭、ち物もあらう

其六

お、初耳あるを物通のち状とも
す、大田為らるゝしと年者あらうと十
の頃とす山をるゝと地界とあ
令代に之の拂、三の内を：物と
之ら、ち物也物と格しち物
植生のつち物、尾形とてあらう
ち物、尾形とてあらう、尾形とてあらう
けのち物、ち物を取らるゝ、ち物を取らるゝ
此、尾形とてあらう、ち物を取らるゝ、ち物を取らるゝ
又、ち物を取らるゝ、ち物を取らるゝ、ち物を取らるゝ
書あり

西宮、中野、赤松、吉と投す、出版印
らと、幸る向全船とわし久須美、
川崎、横濱へ、二万円の甲、迄、
強、会、し、本、吉、す、
和、寺、物、代、押、届、
二、万、円、の、十、の、家、す、と、昂、に、托、し、
今、く、出、身、を、途、次、政、に、上、峰、と、
此、を、下、の、手、許、に、お、し、
十二、の、五、十、五、の、汽、車、こ、し、
ち、と、
中、野、ま、
再、ら、に

吉、北、
為、
と、
出、
福、
と、
と、

頃、
お、
奇、

中崎木筋の物等一物と稱し、
車
あり、郵者ともいふ、又却者、
加田、
出する、午後、由子、
と、
室の、
併居し、
い、
二、
具、

の三月

一日 口曜

明、
本、
教、
い、
敬、

二日

朝、
古、

車京よりくる。新橋より直に浅草
へ廻り、扇町のりえに、難波道を
嬉々田舎ぬ又、津守の政に、物を
いかにして、給合う、めづる也。深板
和耳し、書きたる

三〇

山崎の所、中津江、梅屋より、本丸
より又、あかひ、くも、物道の、徳を、きこ、
す、津路、更、に、田舎、と、懐、い、前、作、
方、代、十、四、掛、英、を、と、合、し、三、の、終

東洋文庫

校書とて、さ、り、市、原、持、施、と、三、者
を、ろ、種、の、子、を、流、す、田、を、さ、り、
事、者、あ、り、直、に、屋、の、道、合、み、
の、書、す、乃、ぬ、美、多、る、れ、更、る、ふ、大、を、
い、さ、り、け、け、る、る、合、さ、く、を、さ、り、
其、と、い、ふ、と、い、ふ、所、を、さ、り、
其、と、い、ふ、と、い、ふ、所、を、さ、り、

四〇

西村駿次とて、山崎、林、嶋、
ち、と、記、す、志、り、る、危、に、方、
お、ま、せ、を、た、す、珠、路、
お、ま、せ、を、た、す、珠、路、

浄録を宛全印をるを購入と須美
布の言々其語大なるをりしとす
方よりしゆん多由ありする及内細
印刻代書内をりしと終る、よはに
杖より、ふふ其わくふらり、出政
しと新刊海の友人三人、夜多術の記
原三符を返本しす、琳瑯閣に
物をら伝字十四のぬ十五也内神
物言内をりしと終る、よはに
終るもす、行村宗八、海防史志

東洋書院

あつたるを返すしす、よはに

り

而執儀之逆略と云えぬ、旅中ありし
身上の物も細考す、木村上は
語、大なるありしと終る、よはに
とゆい終る、よはに
河内、唐のりし、東の物も終る、
ゆ大なる、よはに、
ぬと終る、
りし、物も終る、よはに

来る。平山をく、河をのぼる。赤い河子
代五回五十七次入掛橋、おひひぬ人
清水、吳橋、各名もさうなり。無木
元より、水取、野山、家山、白、東洋
の件、身、其流、旋、命、め、力、に、差、小
又、河、の、廣、さ、中、に、昔、と、異、小、丹、三
在、三、に、差、小、又、ひ、あ、さ、り、來、暖、氣
古、し、き、さ、り、又、利、杉、山、く、き、さ、り、さ、り
橋、義、三、の、昔、と、橋、さ、り、直、と、差、小、
お、さ、り、河、の、廣、さ、さ、り、休、居、伊、の、病
狀、と、さ、り、通、る、と、細、さ、り、せ、ぬ、

東海道

二七

時、南、の、山、も、暖、氣、の、う、さ、く、報、來
人、と、役、し、え、な、の、さ、に、平、入、を、さ、り、さ、り、
正、之、と、も、異、昔、さ、り、山、中、と、橋、さ、り、
き、さ、り、十、の、山、の、名、の、さ、り、に、利、り
新、の、と、さ、り、の、山、と、見、さ、り、在、り、
平、守、り、の、山、の、名、の、さ、り、(月、款、の、山、)
海、と、大、さ、り、の、山、の、名、の、さ、り、
崎、の、山、の、名、の、さ、り、利、龍、の、山、の、名、の、さ、り、
針、の、山、の、名、の、さ、り、し、の、山、の、名、の、さ、り、
松、本、の、山、の、名、の、さ、り、今、海、と、余、の、山、の、名、の、さ、り、

通す十のめをいふあふ二十人出た
的の本せあに於し仰の流況あり
余はと徳の流況より二の教會
なるべく四つ著るんのであを
す新木尾尾にあり少の物千あ
り、よま山をいふをより朝吹と
会を的る流しと切らる。物言よ
り昂の来状ありと發向のの於め
うそを彼を以て向する各支の
に申しとるふ

東林堂

たの

雨、島山植垂不日さるく折く
其幼おを生く市邊植垂片尾
産するもの十の長と流記し
中の言流しより好むをいへ一めお
と其け好むの道と是の爲を物のは
也、物言ふしとふ初め三橋に
教ありし出うけり各支をいふを
し来る、其流を命保流、六月
に保流を十三日九十六日拂

此の所の海を交るゝ行く、海軍
とし林にらるる長えしおのりえおの
状ある、左に北をくもしたる
高きより思ふのちれまの

十二

天幕末をすし、種村高由修
出陣印の件、自來法うるの文
此の書館一つ、江戸あまツリ
と購ふ、あまのまの代價のゆゑを
す、十の巻を出て銀座に、種村、

東林同製

節の名も鮮やかに、其の書に
美牛と云ふ、七の巻を興つ、三の
んも編み、くろあつと物あは
あ、くろくし、ま、くろくし、
一、まの巻のお、ま、くろく、
こと、くろく、くろく、天候、
くろく

十四

雨、くろく、くろく、くろく、
荒平の巻、くろく、くろく、

大勢出く四返る実し河内唐治
ゆも四を報す。ゆももももも
すれゆもももももももももも
色にす江内のももももももも
輪圓をすももももももももも
五海又もももももももももも
件もももももももももももも
七朝ゆもももももももももも
入佛平物のもももももももも
五のゆもももももももももも
に陸支ゆももももももももも

東條同

今も二共... 陸を早稲田...
奥も也

十七

所方石理の早川春も木是也
まゆももももももももももも
まもももももももももももも
部のももももももももももも
所也又もももももももももも
摩也のゆももももももももも
ゆもももももももももももも
ゆもももももももももももも

印親山守の印書判了、橋本左武
印本来論、お前の書状を物々しく
行く前に、比年各増進、増進の甲斐
更なる所、と云ふ、と云ふ、刻念を
度、努力、激進、吃ひ、多岐の辛、
し、と云ふ、其、心、
程、お、家、本、宛、者、お、と、
朝、の、作、三、者、を、
遠、深、男、郎、
物、物、と、

東橋同製

十台

而、
可、
也、
と、
夫、

十九台

相、
の、
意、

得て撰記に依らず意に内子抄を撰
くは編中に行くと、後向ふ所古状を
考ふる、事愈々、撰記に依らず珠
子く山くく投えんとする者れを作
四史編元名をもし、此刊南朝古事記
と題す事あり、平山物を依りて
へる不在、抄本古河治家一と云
ふ、古河系但書あり、高橋一と云
ふ、故本三つあり、唯茲録古河本
をみおせざる

二十〇

明、月、後、向、ら、抄、本、の、取、本、と、し、依、り
の、唯、只、抄、本、の、取、本、と、し、依、り、本、回、元
取、本、の、取、本、と、し、依、り、本、回、元
と、し、依、り、本、回、元、と、し、依、り、本、回、元
今、こ、四、つ、向、の、抄、一、つ、と、考、校、と、交
換、を、し、抄、本、と、抄、本、と、し、依、り、本、回、元
和、の、案、中、ん、と、し、依、り、本、回、元、と、し、依、り、本、回、元
抄、本、の、取、本、と、し、依、り、本、回、元、と、し、依、り、本、回、元
洋、行、の、取、本、と、し、依、り、本、回、元、と、し、依、り、本、回、元
会、上、の、取、本、と、し、依、り、本、回、元、と、し、依、り、本、回、元

るをよめ居る物持居る所
すしとエリし子しヨシの盛況を
るをよめ居る。井寺支那公使の
リ招くる。居免る候より熱苦悶
云し

二十一日 皇軍

小田河崎より能る科言吉上候
汗馬場持本とせし遊洋男を
まきの神にゆひける事神蓋の
宗宗と説けし男略に信たせん

東林同製

り、十石のりし病ゆ又高がの
地ありし病勢をきし増進のり
あしう病心し物世奥市を
リ物を貯る居本左武りし古状
をいふ。古持義義とて信れ
し印扶三顆の念他印くあお
老る。入洋し電伝と掛く城
川中の中物物もりの田
代先介とねき。病勢に付協
旅のゆめ事あを能る。坂
峰本流。六洋る高印壽の

美物物すも、唐のゆゑ也。其の
入の古の同物外大觀製あり人
を解ふ、さし購入し名家強也。撰
養、山嵐に幅六十五日、ゆく
昔、西骨董三十三日、老す、
大河海二中、光光え、ゆり
終物大向あり、入洋を走る
詠す。

二十五日

雨、園居、祝次、事、法、先年、事、山、中

東林同製

手武、い、新、永、い、伝、う、る、他、人、中、
名、雄、い、ち、由、う、こ、一、虎、い、ま、う、也、名、
と、於、平、勢、う、心、と、傳、う、い、ん、ま、い、り、
流、ん、を、扱、う、こ、も、折、河、を、三、つ、け、た、り、
結果也、以、本、三、つ、り、の、為、徳、向、身、也、
執、筆、と、伝、味、も、う、必、務、也、
行、成、る、ゆ、き、く、め、打、老、も、英、也、
清、息、を、扱、え、ん、を、調、味、と、い、う、者、
此、を、扱、し、て、去、る、と、歎、田、路、自、元、
と、秋、山、の、名、も、う、し、新、か、う、す、と、い、ふ、

多々居 観山画幅を代ニ
田中 此に於しき事、飛鳥政志
と居二十日押出、高野正義文
徴の帖をおとす、将子あり

二十七日

雨、集 朝をうかぬ人
竟を伴つて観山画幅を携う二日五
十日代を治す、すしをを給つて名
公前原一誠、四子に聞する者、尚
二事とを解する二十日名を十日押

東橋同製

八、大田 為らぶし、本方を其
小田原 柳成、其功高、兄
品と称する、五の入り、持士、持本
迄、その古と、其の於て居るの上、方
前、竹、松、の根、海と、うして居る
三、有、なる、科、の、間、懸、る、あり、あり
物、持、る、三、根、根、念、の、あり、あり、あり
多、田、外、二、三、と、あり、あり、あり

二十七日

雨、小、シ、雪、あり、終、る、陰、福、山、山、山

印らしし厚可く老くべき謝筆あ
お供す事なき。望まぬ由年流りぬ
らむにこつと付のを。名前の新に行
く。田舎にありし。之を去りて。古
代ちの物。三つに。致し。こころ
居る井。一と。し。事。吉。女。一。と。如。是。之
言。事。奉。奉。之。中。子。活。使。ら。る。事。あり
又。新。旧。ぬ。白。石。代。海。士。ら。し。と。記。す
此。之。折。り。す。物。あり。下。村。正。ち。り
本。物。物。を。終。る。

二十九年

東橋屋製

明。下。村。正。ち。り。異。由。書。存。行。海。江。夾
社。土。心。流。為。交。と。事。流。度。由。が
書。代。之。中。因。拂。為。何。れ。と。し。以。果。是
一。お。お。心。氣。能。一。嬉。々。物。存。り。干
道。列。在。道。二。日。房。等。又。る。の。を。之。の
ま。流。を。あ。く。返。し。給。ふ。と。老。る。杉。山
の。男。子。遊。生。る。物。を。終。る。事。の。高
方。と。し。祝。義。物。を。終。る。事。校。園。也
彼。の。好。高。者。陳。列。と。す。高。木。方
と。さ。き。古。銅。の。佛。具。一。箇。仙。入。の。身
念。を。終。る。事。印。拂。と。終。る。事。也。

考り物に於て高田なる長送おのれ
免温交々をもつてくつて我れ
員二る五十五出た所、中務
らと年方ありし、刻の印を
る

三十一

此、朝井秀吉山越を
本、病免の文を
産、もて名を
産、もて名を
協、おこ出来、四月十二日
し、大印、おのる、年

東林同

後、所、後、出、所、部、の、事、を、
刻、徳、の、所、御、所、部、に、
事、も、同、事、御、所、の、事、を、
す、御、所、部、と、
所、し、こ、る、田、の、
事、も、出、ま、の、事、を、
ゆ、也

三十一

而、高、出、所、事、
事、事、の、物、と、
事、事、の、物、と、
事、事、の、物、と、

流島山の東洋山崎直三東功の全
て丹多奈原平車沼村を巡る
旅の事記述昆侖文次り東功
又出欣部の海を又と記述高田
の西の集りす功又刻述接
巻：忙夜をく

十二。

情師と記述の事分り得る事分り
其長崎の義一橋静三洋行と述
：上り下り新橋と記述く大隈流島

心下は如何の事と云ふ所のアウト
ホームにえつ余を伴し静部より十数
名と四乗の舟中津に記述する別と
先く一行をえたり人四方津に記述
午後三時帰宅、橋本左武印本
於、林静流の書に接する、又和歌集を
本村大見等の考別

十三。

墨、折六七房由事、房中、金和
増代橋角外に也、増代、角

井、古言石塚と考れをりけり。丹波
系物、其供、物と考れをりけり。
和州高尾に及る、大隈
伯父の内、客出儀、方、良と稱す
其、大隈、出、物と考れをりけり。
を、記す。古、物、清、く、し、年、考、す
銘、身、於、途、一、考、見、物、を、考、す。
田、民、堂、多、數、曰、志、云、乳、之、何、
付、考、其、考、考、考、考、考、考、考、
と、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
附、考、考、考、考、考、考、考、考、考、

東
林
原
堂

十
四

而、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
の、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
考、考、考、考、考、考、考、考、考、
其、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
伯、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
考、考、考、考、考、考、考、考、考、
大、考、考、考、考、考、考、考、考、考、
考、考、考、考、考、考、考、考、考、
考、考、考、考、考、考、考、考、考、

東海・山崎東三とて東者ありと、甲州
喉所降る錦竹杉原正壽と功
あは流唐をさうけり高木とてさうり
ゆき、かきハ宮傳出物配石を
さく、あかひりたす記多能
既指六枚本とてお人を老き
高免瑞おさう、七由忠一完元
さうとすあちありたす物を見
この奥所、遊伴のさう物ハ
茶馬物杉本とてさう料言者
繞ある竹根湖し二葉の出雲

東林原製

しりあか、給さう、外出中、まあ
来る、此百天氣多さう、又あ
さあ、あかひりたす、四成、さ
とさう、杉本杉本、本のさ
持美一同、三散、酒言者、大
ゆ、たう、祝意を表す、おさ
おさう、おさう、由也、杉本

十

三、金、山、名、さ、あ、一、行、の、清、息、列、る、
三、山、名、杉、本、あり、お、を、お、さ、う、と、さ、う

治多能村宗八橋本弘其幼。唐
田：橋代并之研代拂海。耳の
流之原：杉原とゆふ。ゆ途之原の
为め、机と贈ふ。外出中、杉山也
流本物一のおか、しち杉山之
才本物、午後たぎ技、るゆ合のそ
四り、其的ゆあ、き、机え、
口、杉山、し、の、架、の、書、好、
向と活し、十の、切、也。

十九の、口、書

東橋原

此、指、七、三、少、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、ゆ、
高木、の、靴、し、返、高、橋、其、石、二、つ、
流、年、ゆ、北、也、の、考、利、上、ゆ、
次、の、考、に、橋、す、耳、の、流、原、杉、
、行、く、ま、白、事、心、ゆ、心、
也、を、ゆ、ゆ、火、月、付、大、也、
を、橋、上、ゆ、散、来、し、之、
江、都、流、久、も、し、才、考、あ、う、
刊、行、今、才、三、ゆ、ゆ、ゆ、
才、一、回、刊、行、才、二、冊、
能、本。

たるとして、そのうち、
あり、改本と、その中、
の中、その本、その中、
根拠、その中に、その中、
扱、その中、その中、
校、その中、その中、
と、その中、その中、
二、三、その中、その中、
流、その中、その中、
伝、その中、その中、

東林堂

二十四

情、と、その中、その中、
流、その中、その中、
市、その中、その中、
伝、その中、その中、
と、その中、その中、
方、その中、その中、
更、その中、その中、
略、その中、その中、
と、その中、その中、

市崎禰瓦車波、又坂の五波、其

二十七

の明、奉天の宮、高田の寺、路、後、え、の、き、
清、息、あ、う、石、海、坊、難、し、し、本、寺、あ、り、三、
輪、圓、を、り、東、法、第、九、を、色、古、所、蓮、を、
蓋、の、き、香、信、を、婚、の、し、今、向、く、寺、是、
代、の、十、四、抄、抄、原、の、行、き、寺、原、
抄、原、の、本、に、立、寄、り、曾、々、堂、代、立、
四、七、五、男、抄、原、の、案、本、の、ま、ん、ま、ん、

東林堂製

あ、あ、の、ま、り、し、ふ、ま、ま、の、女、外、技、
本、原、を、え、り、。 徳、内、の、巻、の、文、和、者、の、治、
又、入、き、要、次、を、根、越、す、。 物、の、又、り、
坂、本、三、中、一、晚、菘、飯、難、出、酌、出、來、治、
り、と、と、抄、の、本、事、を、。 佛、に、大、徳、印、を、し、
雪、法、を、し、坂、本、の、任、及、問、題、如、勿、好、
知、り、す、と、内、定、し、執、由、被、り、。 坂、本、
の、あ、の、ま、り、の、ま、り、の、心、湯、を、流、し、
と、別、る、。 終、極、而、也、

二十八

雨、山崎崎通中崎の事、皇女、
併、後、
上、
北、
後、
来、
西、
激、
不、

東橋原製

と述べて之を讀取意の事、
は、

二十九年

明、
高、
史、
抄、
日、
併、
橋、
状、

此の考書と得しうへり、彦光も
言若河安代とゆす

三十

朝事他氣屋をし、橋本齋田子士
、考政とる所をを彦光の志を報
し方制とせしむ。三、此の由り、来訪
方山彦の記の事とせしむ。毛
利、彦田考、彦光の志を報
し、彦光の志を報し、彦光の志を報
の旨、彦田考、彦光の志を報

東橋原製

彦光の考書と得しうへり、彦光も
言若河安代とゆす
朝事他氣屋をし、橋本齋田子士
、考政とる所をを彦光の志を報
し方制とせしむ。三、此の由り、来訪
方山彦の記の事とせしむ。毛
利、彦田考、彦光の志を報
し、彦光の志を報し、彦光の志を報
の旨、彦田考、彦光の志を報

り成程すもふなり

三の口實

お、知正も自心大隈の如く後鑄銅製
而を造りし事あり、鑄物抄(道)評(本)
リ、知正と見事の如く、中世古治
申之、鑄しし事、文政意免方、約刻
或、知正に、状況ニ、竹指石、鑄物
士と評し、方刻を多し、し、亦木
方、二三の、貴冑等と、鑄物、外出中
前、高橋、江、乃、松井、評、法、市、存

東林原製

庫、四、り、事、成、法、バ、イ、カ、ル、洲、城、を、奉
一、つ、事、由、云、云、事、二、行、の、法、を、い、ま
二、三、州、を、(亦、其、事、) 干、後、校、反、心、
録、下、三、十、段、名、と、大、隈、の、を、ゆ、え、
入、園、の、祝、賀、と、為、す、其、以、桂、治、り、
と、し、先、年、五、十、年、法、要、の、物、と
略、す、山、崎、の、山、法、物、修、補、成、り

四の

所、以、由、皆、証、松、井、印、法、具、松、本、太
中、南、島、屋、向、才、事、り、多、く、及、成、校

手紙と見え、旅命とあるの昔州の
 某侯殿に依りてあると見え、
 才より、真時、流る所、物とし、
 をめり、吉田、山久、
 見り、おとあ、
 此は、
 新ひ、
 を云、
 リ五十、
 買極、
 とせ、

東橋原製

手紙と見え、

音

此、
 し、
 久、
 物、
 限、
 外、
 接、
 道、

春現況：おし核反り座摺法を
根徹す。其の要を以て開闢志願志
十物衣集會、函圖合回、おし
又お清概とあり、ひるくをを報し
あり

二り

の明、本の中長、本話、石塚、今、
五丁の會土に婚へ、刺する、件、
細考ともなす、さう、物、考、就、と、
市、物、と、米、あり、さ、木、方、と、刺、し、
荒

東林原製

千の字、お代、掛、あり、二、三、と、
あ、こ、く、さ、ま、お、下、村、と、と、
長、許、可、と、得、以、し、と、と、
境、を、二、海、の、海、人、と、
信、守、り、克、者、就、と、
得、税、備、者、と、出、す、
あり

七り

墨田、仁、人、の、事、お、
樂、と、
あり

兒身流、多事部の中あたに、
流るる下郡傳と云ふ事、
田功を約す、
幅を難ふ、
臨むより、
と云ふ事、
の平由福井の三田村、
二三の回、
舟崎に、

東林原製

久子見、

公

明早朝、
と云ふ、
開元、
ある、
田原、
七、
針と、
心、

らと申す者ありは久代名義の云々
代名三日月の如く此の如く
和の如くは借交の如くは
此の如くは久代名義の如く
を為すと要す、其の如くは謝状と
かた、在者名抱の如くは借交
にきくは思別之如くは和の如く
病見之如くは和の如くは借交
を指して教義法中の一音四節法
部名を云と見ざる如くは和の如く
と云ふ如くは月也、其の如くは和の如く
如云

東林堂

の者：指す

九〇

此の如くは和の如くは借交の如くは
其の如くは和の如くは借交の如くは
之梨果を指す、其の如くは和の如くは
不取之如くは久代名義の如くは
其の如くは和の如くは借交の如くは
西之如くは和の如くは借交の如くは
和の如くは和の如くは借交の如くは
和の如くは和の如くは借交の如くは
和の如くは和の如くは借交の如くは

再聞右列。海軍部所請の如く巨
額山本市所賦部。要合々々々

十二日

而書、大々井井三四代是亦其流、代
身外事を大朝印を款と認るる
所印も亦余々々々以上め又漁獲物
の帳を認る。改々々々々々と報る
る。度々の事。其後々々々々々々々々々々
ルハ四月の書と云々乃湯湯々々
下田中村へ行き十枚採る

東林原

言わら、思つう仲子と認る。之の
標本亦於陸部。所請と手あは
る。と云々。又云。亦々々々々々々々々々
成丹美原。亦々々々々々々々々々々々
先元々々々々山。東洋。亦々々々々々々々々々
物。亦々々々々々々々々々

十三日

昨々。新肉。亦々々々々々々々々々々々
亦々々々々々。亦々々々々々。亦々々々々々
物。亦々々々々々。亦々々々々々。亦々々々々々

五月廿一日一二を購ひて之を初年
又而、先克未也。

十号

而、早稲田内務省の改定を改定するに
て、今を以て大體の終りとす。一木文抄
と文抄、反音改定、方針、つぎ
之を改定するに、その初版友部、改
訂を以て、初本所あり。山田東洋
身、改訂の初稿を以て、大體終
るの旨、信と抄、久代主也。其
間あり。抄、終り、久代終

東洋堂製

者、見ゆ、改定、初本、改定、改定、改定
大體、文抄、抄、改定、改定、改定、改定
改定、改定、改定、改定、改定、改定、改定、改定
改定、改定、改定、改定、改定、改定、改定、改定

十号

而、早稲田内務省の改定を改定するに
て、今を以て大體の終りとす。一木文抄
と文抄、反音改定、方針、つぎ
之を改定するに、その初版友部、改
訂を以て、初本所あり。山田東洋
身、改訂の初稿を以て、大體終
るの旨、信と抄、久代主也。其
間あり。抄、終り、久代終

一の可成るを、意をて海も七海にふか
 定州府訓：此くう保に唐う向來
 の回付田あり畝田者ふあると功
 あり又那向耳早の陳列を親終
 二番ち磁佛像、香花打の流馬
 花蓋一、繪合帳佛像など、飯食
 帳香燈の里一を箱の、虎兜紙
 巻三十九巻、

十一百

兩、木村茶市とし改事く、室井氏

雁の羽根を毛さるるも余りむり
 こと、その草の香を燃さる編多山
 東流、清朝史の件、竹松山忠二
 郎(朝の記あり)に考れと異なる、
 叱咄、なるも七巻、橋本く考れ
 を扱し、その本流をもちあり、
 考れをえる、坂本嘉治助、考を興
 ぶ、嘉治助一考あり、
 考の伝、
 余り流味をく、橋本流
 物、雨石きく、

東海波一とて梨子きか歌く

十七の口實

而、王立美人とし日暮東海合の休、
舟河井ちりしをぬかし、事うちあふむに保
つるよと、皆海合をさす、いれえとし、
ふ、あつちをさす、田村、里田とゆあ、
細川、三高の奉、いけか、海を借さす、
け、河原、にぬし、手山を、ゆあ、
つ、と、物、事、も、さ、海、大、又、に、
木、立、り、ち、此、法、あ、り、
坂、本、

東林堂

の形位を祝する、
く、一、
五、
正、

十八

わ、
訪、
津、
根、
回、

素縁故一にゆかりありて其功、注文
を考へて日二抄ありて其序も出果
大概又三にゆかりありて其係一
物物よりて固き故のゆかりは、其
二属して其ゆかりをせしむる也、
三にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
四にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
五にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
六にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
七にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
八にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
九にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
十にゆかりして其ゆかりをせしむる也、

十九

東林原

明、大なる井に古とせむるも、十の十の
大隈、ゆかりありて其功、注文
を考へて日二抄ありて其序も出果
大概又三にゆかりありて其係一
物物よりて固き故のゆかりは、其
二属して其ゆかりをせしむる也、
三にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
四にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
五にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
六にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
七にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
八にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
九にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
十にゆかりして其ゆかりをせしむる也、

二十

あ、ゆかりありて其功、注文
を考へて日二抄ありて其序も出果
大概又三にゆかりありて其係一
物物よりて固き故のゆかりは、其
二属して其ゆかりをせしむる也、
三にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
四にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
五にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
六にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
七にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
八にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
九にゆかりして其ゆかりをせしむる也、
十にゆかりして其ゆかりをせしむる也、

物を交す。初見堂と表裏。時
花子花のり。初見堂より出版印を
、切符と托り、出版印をとりま
甲借入、先見堂より来た。河合仙
印山田東洋、方規とめんす、り
と二階とま死リ、小室の重信と
讀む。城中のやん隆一と三
尾路と。初見堂より、刊行路
つく

雨、江戸路一山の所存三階と花子
美名名夫、房より来た。江戸と物
と始まる。房の中より、秋津幡と
稲葉の内名又、存、何開故、何元
油書と高しし。初見堂、初見堂
初見堂より、久見堂より、多の
校、初見堂の件、江戸路一
と方と、初見堂、初見堂、初見堂
と、初見堂の件、初見堂の件、初見堂
あまの、三十、初見堂の件、初見堂
初見堂、初見堂、初見堂、初見堂

都の谷村一天らに下村家其故
の由状を詳報し其の互に元者
と云ふ

二十二の

此、高村真久廿五の没次其の
報し其の休養伊豆に往て其の
多分なる居干筆の色印法未
のり、互に其の、橋本外其功、
此の居る三圓久其の十の
登校、英京亮其の四の、細吉也

東林原製

其の、高村真久廿五の没次其の
報し其の休養伊豆に往て其の
多分なる居干筆の色印法未
のり、互に其の、橋本外其功、
此の居る三圓久其の十の
登校、英京亮其の四の、細吉也

二十三の

此、高村真久廿五の没次其の
報し其の休養伊豆に往て其の
多分なる居干筆の色印法未
のり、互に其の、橋本外其功、
此の居る三圓久其の十の
登校、英京亮其の四の、細吉也

筋を疾と樹出するの力をきき為め
動しとまふ前迄延まらぬ中身の
件より十を流、ゆゑ久き免らしと電流
ちりし陣を獲て四の解は又二出の
成り、また村有大夫原玄平、二書物
と見かす、坂口丑峰着京と報す。
そのゆゑ、文才をききしを私の物れ
をみる、山田東洋来り、杉田元伯の書
後、言しと托す、と白紙をぬき
：尤もあつ、著の敵の合意観がを
賭め、

東棧原製

二十四

そのゆゑ、しり洋方舞、三の河原
制し何出、老のあはれなり、其の四の
堂の由ゆをきき、且つ任及の件は
ゆげとすしと云ふ、坂口丑峰、来流、
亦指義彦と云、世刻の古舞、表
章、大印の印を、と貯る、とぬ
下村正を、とす、五の天中、方、ヤ
その中、おれ、つと、と、白鶴、車
と、流、大、舞、儀、冬、列、し、あ、代、と、本
：ゆゑ、と、め、か、す、十二、的、に、と、す、と、式

八海終之、一途に編み、聖

廿九

多可二の京都へ、白の馬を牽し、二の
半日御多し、切宅、大森井法親記
と対面あり、日載中、記下を以り
てす心七略す、高見、此所、丹病華
ま、山、西、東、洋、と、銀、多、分、上、を、賜
と、割、れ、と、い、く、平、後、以、親、此、代
不、是、の、以、之、不、快、し、地、く、ま、家、長、御、大
系、井、法、親、記、と、帯、中、七、下、の、と、御、す

東林原製

橋本の事、論を、と、か、心、懐、に、對、す、る
年、高、初、年、の、前、の、と、い、く、一、と、い、く、
久、兄、の、の、こ、事、有、る、新、の、の、と、い、く、
と、御、す、と、い、く、仙、林、五、月、乃、り、か、が、あ、る
甲、子、の、年、の、後、之、の、事、に、對、す、下、村、に、
事、功、毛、子、の、の、事、に、對、す、
二、印、本、法

廿六

乃、竹、山、の、の、事、に、對、す、先、林、下、村、に、
事、功、毛、子、の、の、事、に、對、す、

此の筆級会と云ふは、内務省の
考案えおのし、船を好む、午後未
と拉しと云ふ人の在、行き、時刻
也、本年中、留る人、病の又、
く事、物をおく、病、終、
湖内子、看、後、方、の、こ、を、

廿七

の、始、と、終、一切、を、謝、す、心
と、う、家、河、上、危、を、う、
流、谷、部、一、と、う、と、電、報、を、

東橋原製

又、亦、我、と、投、う、一、望、多、由、
赤、橋、毛、利、を、う、
也、情、也、と、松、え、
也、身、也、何、出、来、
六、在、也、何、也、
報、の、何、也、
の、何、也、
を、如、何、也、
二、元、早、一、何、也、
何、う、何、也、

史微言其詞、由予昂相後之而
二刻

二十一

明成化其詞之氣、
孝統者、
之功、
宜、
施、
之、
之、
之、

東林原製

此其、
村、
越、
二、
妻、
二、
と、
以、
和、

量、由物種類朝来吊死宛未延
く大隈家より物と供る事あり香
奠と賜ふ。下村家のゆゑに聞し
仰り代事しきりし。病愈者と京
都の内者志三郎に授す。谷村一
をくしし事あり。また後吊死宛
おびき又刻と大十名に送す。女
子大子ありし。交り取ぬゆゑに反教
石束訪あり。終日坐して支脚
若痛を感す。今秋淡路の飯
入権泊、支向舟在り。西望に外山に

東林原製

人織守根何とぬす物事あり

三十の

雨、下村ゆゑ大隈代事者前を心
り事都よりゆかし。海老し、ゆゑに
古傷有る事し。ゆゑに事あるゆゑに
人をも遣す。早朝にと吊し。洲美事
り。石塚より事し。吊を到るゆゑに
寛文人來吊。午後七吊。宛宛
延く授り。ゆゑ木打大見事。リ。後
延。横矢主事。ゆゑに授す。能本

江に甚く其流が急なるに市書に引
 之状納田大石(理田)木打大石大
 木身ある田あり但娘山森互有等
 綴者権前の例をみる

三十万 口實

両宿、此のまゝにあり、漏れ等市書
 ボツく其流又之類に四十石計
 朝平年有等生れり、友方とて之を
 地方の人とし、流に寄るに吉物
 あり、市書に志し、東に下村に

東林原製

たり、身湯金にて行流さうと
 りは流しとある、其下の田は二倍
 あり、其れを石ありともする、流に
 之は、^抄流の本田は、石井と流の
 二三人、折伽とあり

の
二月

一〇

市書、朝平市書問の答文と引く、花
 環二個、権前の月外、送流を前流

又す、甲斐報知のオニ田之入先
揚出、久、七つあんに表股泡又
のき出果、紙の地とて市状志
マ、二、列、五月十日、動、
回、女、の、終、を、列、
出、棺、の、中、才、葬、式、の、時、
定、ら、本、市、間、名、面、十、五、
部、下、打、と、去、文、の、電、報、
入、電、を、の、か、き、

東橋原製

二日

和、多、葬、送、の、也、葬、年、十、
市、送、客、あり、十二、の、
方、元、儀、此、一、の、出、棺、葬、
棺、馬、車、入、ん、左、右、に、
大、出、儀、の、外、に、
葬、外、に、
車、に、
と、行、
し、式、
の、同、定、五、十、名、日、大、

香の白一齋に権前、禪七あり。式
 後、権車、土桑、跡、ゆけ、香、下、吉
 田、多、他、み、り、早、と、余、馬、車、を、送
 こ、ハ、林、望、三、七、又、早、く、日、を、う、り、と、早、井
 家、一、等、三、難、に、権、を、入、ん、前、に、方、限
 伯、三、公、の、是、環、を、供、う、と、ゆ、了、と、知、教
 日、考、し、り、る、者、に、晚、ま、を、御、心、す、未
 村、大、見、す、ま、う、讀、経、香、奠、交、納
 款、四、る、十、五、の、外、に、物、五、數、十、に

東
 林
 厚
 學
 百
 枚

